

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

〔五十七番 仁田和廣君登壇〕

○五十七番（仁田和廣君） 通告に従い、大綱二点、一般質問させていただきます。

まず、第一点目は、国土強靱化の予算についてであります。

県内では各年度いろいろな予算が執行されている中で、まだまだ不足しているところがあります。そういう中で、先般、私は財務省に伺いまして主計官とお会いし、この国土強靱化予算の広範な利用についていろいろ議論を重ねてまいりました。例えば、県内の河川の話をしみますと、国土強靱化の予算が大変有効に使われているところがあります。それは栗原市の迫川、二迫川、三迫川の流域であります。国土強靱化の予算を使った支障木の撤去などの写真を見て、その後の成果が大変よかったということで主計官も喜んでおりました。また一方、県内の河川をずっと見ても国土強靱化の予算の必要性は疑うべきもないわけであります。例えば、台風十九号のいろいろな被害を見据えて、七北田川中流域では国土強靱化の予算を使い沿岸の護岸をかさ上げしたり、強靱化を図ったり、また、土砂の撤去、それこそ支障木も撤去しております。ちまたでは迫川全体を改修するには約一千億円かかると言われています。知事、今、宮城県の河川整備に関する年間の予算はたったの二十億円しかありません。ですから、やっぱり国土強靱化予算五年間で十五兆円ですから、それをいかに獲得するか、私は今後頑張るべきだと思いが、いかがでしょうか。

また、港湾については、今、クリスマス商戦に向けてコンテナ不足が大いに叫ばれており、中国ラインが通常の二・五倍から三倍の運賃を出しているようであります。ただ、仙台港は浅いため大型コンテナ船の出入りができないわけです。今、約一隻で一万二千TEUを積むスーパーコンテナ船は約二十メートルのドラフトが必要です。港は卵が先か鶏が先かではありません。まず、港湾の整備がなければ入港できないわけですから、知事、コンテナ船、また、ガントリークレーンも大型のものが必要であります。その整備を急がなければ、なかなか今後仙台港の発展には結びつかないと思うわけで、この国土強靱化予算を使いながら頑張らなければならないと思います。また、第二点目で申し上げる水素ステーションもしかりであります。今、世界はCO₂を削減できる水素に向かって、例えば、オーストラリアのブリスベン港はグリーンアンモニアという

CO₂を出さない生産方式で既に何年後かには輸出します。その受入れとして、例えば、川崎港がもう既にそういう準備に入っております。先般、知事に水素ステーションの先駆的な役割をしているところと会っていただきました。知事、先般、知事会で水素ステーションを今後どのようにするかという意見を述べたようであります。私から言わせると今のガソリンスタンド程度の水素ステーションではなく、もっと広大なものにして、言わばグリーンアンモニアを輸入して、それを水素ガスにし、そして、例えば電力に供給する。また、宮城県内にあるトヨタ自動車東日本株式会社に供給する。今、トヨタ自動車株式会社は水素ガスを使う車を生み出そうとして努力しておりますから、その辺も含めた水素ステーションの建設を急がなければなりません。このときには莫大な予算がかかります。例えば、お隣の釜山港の年間の予算は七千億円です。宮城県の二十億円に比べたらはるかに発展するのは当然のことで、今、七千万TEUから一億TEUに伸びようとしております。そういうところと肩を並べるのではなく、宮城県は東北の雄ですから、やっぱり東北のナンバーワンの基地として、また、水素にも向かって進まなければならないと思っております。また、この国土強靱化予算はあらゆる面で頻繁に使われております。例えば、農政部では農政の土地の需要に関する整備事業があります。その事業の中で三十億円ほどは国土強靱化予算です。また、水産林政部は漁港漁場整備事業の中で二、三十億円使っている。国土強靱化予算というのは直轄と補助事業でしか使えない。主計官にはその辺もちょっとお話をし、その枠を越えられないかという話もしています。やっぱりいろんな申込みをしながら五か年で十五兆円。今、全国各地がその予算の獲得にしのぎを削っております。企画部長にも後ほど聞きたいのですが、宮城県もその体制がもつともつと必要だと思えます。また、教育委員会、文部科学省がこの予算について大変進んでおりまして、例えば、老朽化対策とかバリアフリーでも既に使っていると聞いておりますから、その辺の充実をもつと教育庁はすべきだと思います。また一方、多賀城市では、今、創建千三百年の南門の建設を急ごうとしております。財政もそんなによくない市ですから補助事業としてこれを取り上げるぐらいのことは必要だと思います。知事、改めて言いますが、この国土強靱化予算は全国でしのぎを削って要望しているわけです。その中で企画部がちりちりとそのセクションをつくって、五か年で十五兆円ですから、その中で二兆円も獲得したら懸案がほとんど解決できると私は

思います。あんまり無理言ってもしようがありませんが、その辺は頑張らなければいけないと思います。ですから、この予算獲得に向けて大いに頑張ってください。

次に、大綱二点目、水素ステーションの件であります。

午前中、遠藤隼人議員がCO₂削減のグラスゴーのCOP26のお話を詳しくやりました。私は、宮城県、日本の置かれている位置をあえて言いたいと思います。同時に、日本は不名誉な化石賞でした。これはCO₂削減、特に石炭火力発電所の削減に関する方向が全然出ていないわけです。グラスゴーでの会では石炭火力発電所を順次削減していくことをもう既に明確化しています。ところが宮城県では仙台港にまだ白煙を出している石炭火力発電所があります。こんな間違った方向はないと思います。今後、いろいろ進めるに当たって、化石賞を受けたことへの感想、それから宮城県が今後CO₂対策にどのように臨むか、その辺をお伺いしたいと思います。

私は漁業会社を経営しておりました。南太平洋にアメリカンサモアという国があります。行くときにはハワイかニュージーランドから行くかしかかない大変へんぴなところでありまして、その空港に着きますと山がありません。ほとんど平らでサンゴ礁でできた島のようなのですが一メートルぐらいの海拔です。今、この地球温暖化で地球全体、南極が溶けたり、また、北極海が溶けたりで大変な状況です。一メートル上がったら、あいう国は存続できません。そういうせっぱ詰まった国がいっぱいあります。ですから、私は日本の国だけに話をせず宮城県としても積極的にそういう対策を打ち出すべきだと思います。知事の回答を求めます。

それから、原発に私は賛成です。やっぱりCO₂削減に関しては必要です。それから、午前中で議論のあった太陽光、風力などの再生可能エネルギーに関していろいろな条例をつくりながら制約する。もちろん丸森町のように崖崩れがあったり、いろいろな問題があることは規制しなければなりません。しかし、例えば、自然保護エリアとか森林保全地域の平たんなどところまで規制を加えて、一切太陽光と風力はさせない。僕はそれでは進まないと思いますが、その辺の考え方はいかがでしょうか。もつともつと進めるべきだと思います。

また、宮城県の海岸は漁業権が全て張りついておりますから、なかなか難しいと思いますが、風力については、まだまだ進める方向があるように思うわけでございまして、

いかがでしょうか、知事。

やっぱり宮城県は東北の雄ですから、全体に風力、太陽光、原発、この辺はやっぱり進めざるを得ない状況です。また、先ほども言いましたが、私は仕事柄、ロシアの樺太にあるユジノサハリンスクに何回か行きました。やっぱりロシア人は結構ユーモアがあつて、レストランに行きますと電気が全部ついていて時間から、ろうそくが各テーブルに配置されます。なぜろうそくなのかと思いましたが分かりました。夜八時近くになると電気が消えそうになる。最後には消えてしまい真つ暗になる。そのときにキャンドルサーブスみたいな感じで火をつけて食事を楽しむ。それは、ああいう国だからです。ただ、現代の日本でいろんな電力の状況が悪くなればそんなことも言つてられないわけでありますから、ぜひ、東北の雄としてその辺は進めていかなければならないと思いますが、いかがでしょうか。

また、水素ステーションについては、例えば、グリーンアンモニアを輸入して、将来は今のトヨタ自動車株式会社がやっているように水素の車が発展してくるので、それに供給できて、また、各工場にもやる。その辺のことは大変大事だと思いますから、今後どのようなお考えなのか。また、そういう環境問題を考えた場合でも私は太陽光、風力などの再生可能エネルギーも必要だと思いますので、その辺、前向きな答弁を求めたいと思います。

一点目の国土強靱化、もうちょっとしゃべらせてください。知事、国土強靱化は笑っている問題ではありません。例えば、要求の中でまだまだ進まない部分がいっぱいあります。そういう進まない部分を担う、その辺が大変大事だと思いますので、ぜひ前向きな方向をしていただきたいと思います。

以上、ちよつと時間がありますが、再質問がっちりやります。

壇上は終わります。

○副議長（外崎浩子君） 知事村井嘉浩君。

〔知事 村井嘉浩君登壇〕

○知事（村井嘉浩君） 仁田和廣議員の一般質問にお答えいたします。大綱二点ございました。

まず、大綱一点目、国土強靱化予算についての御質問のうち、企画部に担当課を設

け一元的に対応すべきとのお尋ねにお答えいたします。

県では令和元年東日本台風など全国的に大規模な自然災害が頻発している状況を踏まえ、昨年八月に私を本部長とする宮城県国土強靱化推進本部を設置し企画部企画総務課を事務局として、国の施策に関する情報共有や政府要望の調整など関係部局の連携を図るための体制を整備しているところであります。その上で今年三月に策定した第二期宮城県国土強靱化地域計画に基づき、国の防災・減災、国土強靱化五か年加速化対策事業を活用しながら、近年の災害から得られた教訓を踏まえて国土強靱化の取組を推進しているところであります。事業の実施に当たっては関係部局が各省庁と専門的な見地から協議を行いながら、より効率的・効果的な執行に努めているところでありますが、一般の国の経済対策も踏まえ国土強靱化予算を有効に活用できるように企画部を中心に更に連携を深めながら、全庁一丸となって災害に強い県土づくりに取り組んでまいります。

次に、大綱二点目、水素ステーションについての御質問にお答えいたします。

初めに、火力発電からの転換についてのお尋ねにお答えいたします。

今年十月に閣議決定された第六次エネルギー基本計画において、火力発電の今後の在り方について、電力全体の安定供給を大前提に再生可能エネルギーによる発電量の変化にも対応した上で、できる限り電源構成に占める発電比率を引き下げていく方針が示されました。また、非効率な火力のフェードアウトのほか水素やアンモニアといった脱炭素燃料の混焼などにより、火力発電から排出される二酸化炭素の削減を促進することとしております。県といたしましても地球温暖化への対応のため、火力発電からの転換を可能な限り進めていくことが重要であると考えており、引き続き徹底した省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入などを進めてまいります。

次に、地球温暖化が及ぼす影響についての御質問にお答えいたします。

今年八月に国連の機関から公表された報告書では、人間の影響が大气、海洋及び陸域の温暖化を招いていることには疑う余地がなく、広範囲かつ急速な変化が現れていると示されており、今や気候変動問題は人類の生存基盤を揺るがす気候危機とも言われている状況であります。我が国でも令和元年東日本台風や令和二年七月豪雨などにより、生命や財産に甚大な被害をもたらしたことは記憶に新しいところであります。また、地球温暖化の影響は水稻の品質の低下、リンゴやブドウの着色不良、サンマやサケの漁獲

量の減少などにも及ぶとされ我が県の基幹産業である農林水産業にも広がる懸念があります。このように県民の暮らしやなりわいなど広範囲にわたり重大な影響を及ぼすものであることから、地球温暖化への対応は最優先で取り組むべき喫緊の課題であると認識しております。

次に、全国知事会における私の発言の経緯についての御質問にお答えいたします。

先月開催されました全国知事会の脱炭素・地球温暖化対策本部では、脱炭素社会の実現に向けた対策の推進に関する方針や国への提言の取りまとめを行うべく、私も知事として、また、知事会に新たに設けられました国民運動本部の本部長の立場で参加したところであります。私からは、現在、国が制度設計を進める地域脱炭素移行・再エネ推進交付金の十分な予算確保等に加え、水素が発電・輸送・産業など幅広い分野での活用が期待され脱炭素社会の実現に向けた鍵となる技術であることを踏まえ、需要と供給の両面から普及拡大の必要性を述べさせていただきました。その際、我が県には東北地方で唯一の製油所が立地し重要なエネルギー供給基地の役割を担っていることから、一例として、こうした施設が水素供給の核となることよって、地域のサプライチェーン全体のカーボンニュートラルにつながるような取組を挙げ、その実施に向け知事会を通じて国への働きかけと支援をお願いしたものであります。今後とも知事会での活動を含め我が国の脱炭素化を早期に実現できるよう取り組んでまいります。

次に、仙台港区への水素ステーション基地整備についての御質問にお答えいたします。

国際物流の結節点・産業拠点となる港湾において、脱炭素燃料である水素やアンモニアの受入れ基地としての整備は、脱炭素社会の実現に向けて非常に重要であると認識しております。国では今年一月から六地域七港湾においてカーボンニュートラルポート形成計画の策定に向けた検討会を開催するなど、港湾における脱炭素化の取組を進めております。県におきましても国の検討状況を踏まえ来年度から計画策定に着手することとしており、その準備を進めるため十月に庁内ワーキンググループを立ち上げたところであります。県といたしましては、これらの取組を通じエネルギー関連企業や関係機関などとも連携をいたしまして、仙台塩釜港の活用を含め脱炭素社会の実現に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

私からは、以上でございます。

○副議長（外崎浩子君） 環境生活部長鈴木秀人君。

〔環境生活部長 鈴木秀人君登壇〕

○環境生活部長（鈴木秀人君） 大綱二点目、水素ステーションについての御質問のうち、再生可能エネルギーと水素エネルギーの導入の必要性についてのお尋ねにお答えいたします。

脱炭素社会の実現に向けて化石燃料からのエネルギー転換を図るためには、温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギーの最大限の導入や持続可能なクリーンエネルギーである水素エネルギーの普及拡大が必要であると認識しております。再生可能エネルギーについては太陽光発電を中心に導入量が増加しておりますが、今後も地域と共生した形での導入を積極的に推進してまいりたいと考えております。また、水素エネルギーについては現時点で市販化されております燃料電池自動車、いわゆるFCVを中心としてその利活用を推進しているところでございますが、今後は将来的な産業分野等での水素利用の拡大を視野に取組を進める必要があると考えております。更に、長期間の貯蔵が可能な水素エネルギーの特性を生かすことで、気象条件により発電量が変動する再生可能エネルギーの更なる有効活用が期待できることから、それぞれの特徴を生かして脱炭素化を促進してまいります。

私からは、以上でございます。

○副議長（外崎浩子君） 農政部長宮川耕一君。

〔農政部長 宮川耕一君登壇〕

○農政部長（宮川耕一君） 大綱一点目、国土強靱化予算についての御質問のうち、農政部における活用状況と今後の活用方針についてのお尋ねにお答えいたします。

近年頻発する集中豪雨や台風等により農村地域においても甚大な被害のリスクが高まっており、防災・減災対策に取り組むことが重要であると認識しております。このため、農政部においても防災・減災、国土強靱化五か年対策関連予算として、昨年度補正予算及び今年度当初予算において事業費ベースで約三十億円を計上し、水田の貯留機能向上などの流域治水対策、防災重点農業用ため池の防災・減災対策、農業水利施設等の老朽化・地震・豪雨対策などの事業に取り組んでおります。県といたしましては早期の

効果発現に向け引き続き国と調整しながら予算の確保に努めますとともに、農業・農村の国土強靱化の更なる加速化を図ってまいります。

私からは、以上でございます。

○副議長（外崎浩子君） 水産林政部長佐藤靖君。

〔水産林政部長 佐藤 靖君登壇〕

○水産林政部長（佐藤 靖君） 大綱一点目、国土強靱化予算についての御質問のうち、水産林政部における活用状況と今後の活用方針についてのお尋ねにお答えいたします。

頻発化・激甚化する自然災害に対し漁港施設や治山施設等の強靱化を推進することは、我が県の水産業・林業の振興・発展と県民の生命・財産を守る上で大変重要であると認識しております。このため、水産林政部では防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策に基づき、昨年度三月補正予算において約二十四億円を計上し主要な防波堤や岸壁の耐震・耐津波対策などに加え、令和元年東日本台風により荒廃した山地の復旧などに取り組んでいるところでございます。今後とも防災・減災に向けた予算の確保に努め、漁港施設の老朽化対策や山地災害危険地区等での治山対策など漁港・治山施設の強靱化をしっかりと推進してまいります。

私からは、以上でございます。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

〔土木部長 佐藤達也君登壇〕

○土木部長（佐藤達也君） 大綱一点目、国土強靱化予算についての御質問のうち、河川整備の推進についてのお尋ねにお答えいたします。

県管理河川における支障木伐採や堆積土砂撤去等については、従来、県単予算により実施してまいりましたが国土強靱化予算を活用することにより整備が加速化され、特に迫川や七北田川など人口や資産が集中する河川や水害のリスクが高まっている河川において大きな効果があったと考えております。また、頻発化、激甚化する豪雨災害に対応するため、昨年度、新・災害に強い川づくり緊急対策事業アクションプランを策定し、河道障害が著しい箇所や河道能力が不足している箇所について五か年で解消することを目標に掲げたところであり、国土強靱化予算を活用することにより緊急性の高い河川の整備を重点的かつ集中的に推進できるものと考えております。県といたしましては、

河川整備や維持管理に必要な国土強靱化予算等の更なる確保について国に強く要望し、県民が安全に安心して暮らせるよう取り組んでまいります。

次に、大水深コンテナバース等の整備についての御質問にお答えいたします。

近年、輸送コストを抑え競争力強化を図るため欧州航路や北米航路等においてコンテナ船の大型化が急速に進展していることから、その動きに的確に対応する必要があると認識しております。そのため、県では仙台塩釜港仙台区向洋地区においてマイナス十五メートルの大水深コンテナバースを計画し、段階的に整備を進めているところです。県といたしましては、東北のみならず、これからの日本を牽引する高い競争力を有する港を目指し、国土強靱化予算の活用を視野に入れながら次期港湾計画の改訂に当たっては、更なる大水深コンテナバースやガントリークレーンの整備についても検討してまいります。

私からは、以上でございます。

○副議長（外崎浩子君） 教育委員会教育長伊東昭代君。

〔教育委員会教育長 伊東昭代君登壇〕

○教育委員会教育長（伊東昭代君） 大綱一点目、国土強靱化予算についての御質問のうち、県教育委員会における国土強靱化予算の更なる活用と多賀城創建千三百年記念総合整備活用事業への活用についてのお尋ねにお答えいたします。

県教育委員会では国土強靱化予算を活用し、学校における防災機能強化対策の一環として特別支援学校のトイレの洋式化改修などを行っております。今後とも学校施設のバリアフリー化やトイレの洋式化を含む防災機能の強化に加え、長寿命化を図るための対策を進めていくため国土強靱化予算の積極的な活用を検討してまいります。また、多賀城創建千三百年記念総合整備活用事業については、国土強靱化予算である文部科学省の歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業を活用し、令和六年までの完成に向け政庁・外郭南門間の環境整備事業を着実に進めているところです。県教育委員会といたしましては、同じ補助金を活用して外郭南門の復元整備を行っている多賀城市と協力しながら今後とも特別史跡多賀城跡の環境整備を推進してまいります。

以上でございます。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君）　まず一つは、具体的に企画部の中に国土強靱化予算に対応する担当課をつくらなければいけないと思います。知事、企画部長、どうですか。

○副議長（外崎浩子君）　知事村井嘉浩君。

○知事（村井嘉浩君）　この問題に限らず担当窓口をといて御提言をいただくわけですが、先ほどから議員御指摘のとおり、国土強靱化というのはあらゆる部局にまたがっているということもありまして、私を本部長とする推進本部を立ち上げ、そして事務局を企画総務課に担わせ一元的に調整をさせていただいております。会議でどうすればいいのかということをやりました、その場で私どものほうで皆さんと意見交換をしながら意思決定していくということをやっておりますので、かえってこのほうが下から詰めていくよりもみんなではっと意見を出せますのでスムーズにいくのではないかと思っております。

○副議長（外崎浩子君）　五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君）　大事なことは予算規模が最初は三年で五兆円だったと思いますが、そこから五か年で十五兆円と伸びているので目標設置なのです。例えば、農政部、水産林政部、教育委員会、また、もちろん土木部が一番大きいので、その辺の目標を設置することが僕は大事ではないかと思いますが、その辺はどうですか。

○副議長（外崎浩子君）　知事村井嘉浩君。

○知事（村井嘉浩君）　国土強靱化が出てきたので新たな計画というよりもやらなければいけない事業が山積みになっております。今まで復興を最優先にしており、既存の通常予算でやらなければいけないことが山積みになっておりましたので、それをなるべく前倒しするようにという指示を出して、どんどんどんどんやっているということがございます。したがって、新たな計画をつくるというよりも前倒して仕事を早くこなしていくって次の負担を軽くするという形を取りたいと思っております。

○副議長（外崎浩子君）　五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君）　知事、今、県内の予算不足の問題は山積みですから、やっぱり企画部長とともに本腰で進めてもらいたい。

それから土木部の港湾こそ多額にかかります。先ほど答弁の中でコンテナ船十五メートルと言いましたが、釜山港は十八から二十メートル。さつき部長も言われたけれど

も、多量に運べ、そのコストを安くするため、今、毎日毎日大きなコンテナ船が入港します。タイヤ会社等々は仙台港から大型コンテナ船がないため、わざわざ関西方向にやっています。そういう手間をかけるのではなく、やっぱり東北六県からインセンティブを使いながら、それから北海道からも集めるぐらいの手腕をやってもらいたいと思いますが、どうですか。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

○土木部長（佐藤達也君） 今、議員がおっしゃったとおり、世界の流れとしてはコンテナ船の大型化が進んでいます。一方で大型化が進んでいるがゆえに寄港する港も限定しているというところがございます。ですので我々として、まず、その仙台港に荷物を集めて、寄ってもらえる、その両方の政策を同時に進める必要があると思っておりますので、そこを頑張ってやっていきたいと思っております。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） しゅんせつするにしても、例えば、ノルウェーあたりのフィヨルドでは岩盤が固くて掘れません。ところがここは掘り込み港湾で砂ですから、予算さえあれば沖防から新北防波堤、また内湾まで掘れるわけなので、やっぱりもっと前向きに、また、遅れずに進めていただきたいと思います。そのときにはスーパーガントリークレーンの整備等もやらなければいけません。どうですか。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

○土木部長（佐藤達也君） そういった日本を代表するような港になるように、まずは、その計画上の位置づけということも必要になってまいりますので、次期の港湾計画の改訂において、そういったことも視野に入れ有識者の意見も聞きながら検討してまいりますと思います。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 次期の港湾計画は大事な計画ですから、私がいつでも提唱している国際戦略港湾等に、大体百万TEUぐらいを目指してやるべきだと思いますが、その辺の意気込みをもう一回お願いします。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

○土木部長（佐藤達也君） 頑張ってやっていきたいと思っております。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 水素ステーションの件、国土交通省の幹部からも全国六港に水素ステーションの基地を造ろうとして頑張っているとお聞きしました。しかし、宮城県ではなかなか手が挙がらない。ただ、知事の答弁の中で本年度中にいろいろな計画を立案して、その手も挙げたいということでした。東北で一番大きな港湾を持っていますし、先ほどお話のようにエネルギー基地も持っていますから、国の方向づけにも合わせて国土強靱化予算も使いながら、水素ステーション基地の整備は大いに進めなければいけないと思いますが、いかがですか。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

○土木部長（佐藤達也君） 今、議員がおっしゃったカーボンニュートラルポートに選定されている港というのは、現在、国のほうでそのマニュアルも策定しております、そのマニュアル作成のためのモデル的な箇所でもあると認識しております。ですので、そのマニュアルの策定状況も見ながら、先ほど知事が答弁申し上げましたとおり、今、庁内で検討委員会をやっておりまして、早い時期にそのカーボンニュートラルポートの検討を進められるように調整してまいりたいと思います。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 今、国土交通省が六港、進めていると言いましたが、やっぱり仙台港が私としては最高の場所だと思うし、今、同時並行的に川崎港が大手の会社と組んで水素ステーション基地を整備しようとしているわけです。その辺はがちりと横の連絡を取りながら遅れないように、東北で最初の水素ステーションの基地にするところが大事だと思いますが、どうですか。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

○土木部長（佐藤達也君） カーボンニュートラルポートの形成計画とその計画の中に位置づける事項として、今、分かっている範囲では、例えば、温室効果ガス排出量の推計ですとか、温室効果ガスの削減目標といったところも含む非常に大きな計画になっております。ですので、環境生活部とも連携し有識者の意見も踏まえながら計画をつくってまいりたいと思います。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 仙台港の役割は大変大きいと思います。やっぱり近未来に首都直下型及び東南海地震が起こり得る可能性があるわけです。あの東日本大震災の折に最初に油を積み出したのは、実は仙台塩釜港塩釜港区の貞山埠頭からです。内湾で助かったところだからできました。言わば首都直下型のときに関東、関西近辺が困っているときに病院船も入れてもいいだろうし、僕がやっぱり支援型だと財務省、国土交通省でしゃべったときもそういう発案はいいというお話なので、どうですか。また、そのためには新しく造るバースは耐震バースにしなければなりません。その辺の対応はいかがですか。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

○土木部長（佐藤達也君） 耐震強化岸壁は普通の岸壁に比べて耐震性を増したという岸壁になっており、例えば、よその港の岸壁が使えないというようなときに安定的な物流機能の代替という意味で大変重要なものだと思っております。今の仙台港区においては災害時に各種貨物を取り扱うということで、例えば、コンテナ貨物用の耐震岸壁、自動車のユニット貨物用の耐震岸壁、穀物のバルク貨物用の耐震岸壁というものの整備はしております。一方で、それで足りるのかということもございますので、そういった部分について国とも協議しながら、より安定的な物流機能もしくは他地域での代替といったものができるように更に検討してまいりたいと思います。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） やっぱりこの国土強靱化予算というのは災害とかいろいろなものに対応する予算ですから、逆に言うと、説明の仕方によれば、例えば、耐震バースや水素ステーション基地を造るとか、港内を掘るとか、私の感触ではそういう予算に十二分に対応できると思います。多分、二十メートルの水深を確保するためには五百億円、一千億円がかかります。そういう多額な予算です。その辺はどうですか。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

○土木部長（佐藤達也君） 国土強靱化予算で事業を進めるに当たっても、先ほど申し上げました港湾計画上の位置づけが非常に重要になってまいります。その港湾計画の改訂に当たっては、先ほどもお話ししましたが、カーボンニュートラルポートといった計画も合わせていくということだと思っておりますので、そういったことも含めて計画を

策定してまいりたいと思います。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） それから河川の件で迫川の例を申し上げましたが、県内各河川、阿武隈川、七北田川、吉田川、迫川、その他二百ミリ以上降ってしまうとあふれるような河川が多いわけです。例えば、七北田川では既に護岸整備に使っています。僕は再度全体を見直して、また、市町からの意見も聞いてがっちり国土強靱化予算でやるべきだと思います。十五兆円の中の二千億円でも三千億円でも獲得できれば、そういう長年の地元の懸案が解決されます。どうですか、もう一回、意気込みをお願いします。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

○土木部長（佐藤達也君） 五か年加速化予算の前に三か年加速化予算というのもございました。その際も河川の土砂撤去、支障木伐採といったような予算を獲得して、これまでやっていた事業をかなり加速化、前倒しできたと思っております。今回、五か年加速化が始まり補正でも予算を獲得してまいりますので、引き続き予算を獲得して、かなりの部分がまだ残っておりますので、より前倒しできるように頑張っていきたいと思えます。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 私議員になってから三十年近いのですが、農政部は農村生産を高めるために、毎年毎年、少ない予算で進めています。今、国土強靱化予算は三十億円ぐらい使えている状況ですから、もっと規模を拡大して進めるべきだと思いますが、どうですか。

○副議長（外崎浩子君） 農政部長宮川耕一君。

○農政部長（宮川耕一君） おっしゃるとおりでございます。現状、流域治水対策、あるいは防災重点農業ため池等に使っておりますが、この事業は園芸産地の強靱化といったものにも使えますので、そういったことも含めて、より活用できるように努めてまいります。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 農村関係は本当に多額の予算が必要ですから、もっと前向きに多岐にわたっているいろいろ考えていただきたいと思います。

水産林政部ですが、予算が二億六千万円ぐらい、一件当たり五十万円ずつ補助する県産材利用サステイナブル住宅普及促進事業の予算が切れて、せっかく宮城県産の材料を使って家を建てようとしても止まっているということです。私からの提案ですが、今まで宮城県産材を売るのは大変な懸案だったのですが、今は飛ぶように売れて、そういう家に入りたいという人たちが出てきているので、年度内にあと四、五千万円の予算を増額して、来年度はそのプラスした分を合わせて年間三億円ぐらいに積み増しするなど前向きな予算を組むべきだと思いますが、どうですか。

○副議長（外崎浩子君） 水産林政部長佐藤靖君。

○水産林政部長（佐藤 靖君） 仁田議員から御指摘がございました今年度実施いたします県産材利用サステイナブル住宅普及促進事業につきましては、現時点で約四百八十棟の申請となっております。予算上限となる見込みとなったことから、先月二十五日をもって今年度の受付を終了したところでございます。想定を上回る申請が寄せられた要因といたしましては、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ消費マインドからの反動に加え、コロナ禍を契機とした在宅勤務の普及といった生活様式の変化などによるものと認識しております。御提案のありました国土強靱化予算等を活用した木造住宅建築支援につきましては、今後どのような対応が可能か財源も含めて検討してまいります。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 今後、対応が可能か検討するのではなくて、総務部長にちよつと聞きたいのですが、今、この予算がなくて事業自体が止まろうしている。ところが僕から言えば大変有効な制度だったので、例えば、年内のプラスの補正、それから来年度について明確に答弁してください。

○副議長（外崎浩子君） 総務部長大森克之君。

○総務部長（大森克之君） 今、水産林政部長からお答えしました、この県産材利用サステイナブル住宅普及促進事業は、実は財源として環境税等を充当しております。そういったこともあり今年度中の拡大につきましては、いろいろ検討が必要な部分があり、なかなか難しい部分があると思います。今後につきましては関係部局といろいろと検討しながら進めていきたいと思えます。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 補助事業であればさつき言った国土強靱化予算も使えるので、こういう有効な事業こそ使うべきだと思います。部長、知つてのとおり、県産材を売り込むというのは大変至難の業でした。だから後ほど計画するのではなく、ぜひ継続する。また、そういう考え方を。財政課長、答弁をお願いします。

○副議長（外崎浩子君） 財政課長鈴木雄貴君。

○財政課長（鈴木雄貴君） 答弁自体は今し方、総務部長から答弁させていただいたとおりでございますが、仁田議員からは昨日、そして今朝も御連絡いただきまして、特に事業者様の声を教えていただいたところでございます。財政課としても、しっかりその利用実績とかニーズ等を踏まえて、しかるべき対応ができるように迅速に検討してまいりたいと思っております。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 財政課長に答弁なんて初めてのことだろうけれども彼だったら僕はやれると思つて質問いたしました。内幕はいいからやっぱり前向きに表の話をしてください。

ところで、教育長。老朽化対策とかバリアフリーとか、私はやっぱり県内のいろんなそういう施設整備というのは待ったなしだと思えます。文部科学省から大変いい方向づけが出ていて力強く思いますが、今後、バリアフリーも含めて考え方はどうですか。

○副議長（外崎浩子君） 教育委員会教育長伊東昭代君。

○教育委員会教育長（伊東昭代君） この国土強靱化の予算をしっかりと活用しまして施設の老朽化対策、バリアフリー対策を進めてまいりたいと思っております。一方で、県立高校についてはこの予算が活用できないという状況でございます。もともと国のほうの補助というのが老朽化対策はできないというところがございます。これについては我々も引き続きしっかりと国のほうに要望してまいりたいと考えております。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 県立高校の話は前段で私も聞いて啞然としたのですが、ほとんど義務教育です。高校に行かない人はほとんどいない。そういう中で、この国土強靱化予算の枠組みも直轄か補助事業しかできないというのは、僕は甚だ使い勝手が悪い

ということ、より使い勝手のいいようにするためには、今、教育長がお話しされたように、今後、国に教育委員会など広範囲に使える方向で要望すべきだと思いますが、いかがですか。

○副議長（外崎浩子君） 教育委員会教育長伊東昭代君。

○教育委員会教育長（伊東昭代君） この国土強靱化予算も含めて国からのしっかりした財源措置、支援を我々県としても全国の教育委員会の協議会でも強く要望しているところでございます。引き続き要望してまいりたいと考えております。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 多賀城市の創建千三百年、より具体的に南門の建設も進んでいます。やっぱり多賀城市だけの財政では深谷市長が一生懸命頑張っても無理なのです。やっぱり県からの支援が私は必要だと思いますが、どうですか、もう一言お願いします。

○副議長（外崎浩子君） 教育委員会教育長伊東昭代君。

○教育委員会教育長（伊東昭代君） 多賀城市で実施しております外郭南門の復元整備につきましても、この国土強靱化予算については活用されているということでございます。我々県でやっている事業、そして多賀城市でやっている事業、いずれにいたしましても多賀城市が策定した特別史跡多賀城跡附寺跡第三次保存管理計画の重要性が国に認められたものと考えておりますので、よく多賀城市とは協力しながら整備をしっかりと進めてまいりたいと考えております。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 教育関係でのバリアフリー、私が財務省に行くとき保健福祉部から要望についての書類をいただきました。それも主計官に渡しながらいろいろお話をしたのですが、これからはやっぱりバリアフリーを徹底的にやる時代です。例えば、私が毎回言っている陸前山王駅、また、仙石線の西塩釜駅のバリアフリーについてですが、車椅子の方、年配の方は階段しかないので利用の広がり全然ありません。やっぱりせつかくの機会ですし、あの分は財務省でも見ておりますから、今後、どういう方向を望むのか、どうですか、保健福祉部長。

○副議長（外崎浩子君） 保健福祉部長伊藤哲也君。

○保健福祉部長（伊藤哲也君） 県内の施設のバリアフリー化は県としても誰もが住みよいまちづくりということで推進すべき課題だと思っております。国土強靱化予算で申しますと、バリアフリー化、あるいは長寿命化や耐震化ということでの予算のメニューがあります。これまでも活用しているわけですが、引き続き施設の事情も聞きながら予算化に向けて進めてまいりたいと考えております。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 前にパラリンピックのお話をしましたが、県内のバリアフリーの施設整備、福祉関係の方々に対するいろんなものがまだまだ希薄です。その辺の意気込みはどうですか。

○副議長（外崎浩子君） 保健福祉部長伊藤哲也君。

○保健福祉部長（伊藤哲也君） 車椅子の方の実体験、障害をお持ちの方の目線で見たバリアフリーの必要性ということを議員から御教示いただきました。例えば、施設の階段をスロープにするとか、いろいろな具体的な問題があると思っております。県としても誰もが住みよい福祉のまちづくり条例をもって推進しているわけですが、その裏づけとなる予算は非常に大事でありますので、市町村、社会福祉施設等と連携しながら実情を聞いて必要な予算措置に努めてまいります。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 県内の県道を車椅子で利用したり、目の不自由な方、耳の不自由な方が利用する場合のバリアフリーは、まだまだ全国の指数からいうと最下位とは言わなくてもまだまだ進んでいないような気がします。先般、多賀城市内でバリアフリーの道路を造ろうとなりましたが、まだ遅々として工事も進んでいない状況です。あらゆる市町からの要望も受けながら進めてください。前に塩竈市内を車椅子で歩いたことがありますが、通常、何でもない道路がちよつと傾いていたり、段差があると全然歩けません。その辺の進め方はどうですか、土木部長。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

○土木部長（佐藤達也君） 周辺の土地利用に合わせて、先ほど保健福祉部長が答弁したように、新しい道路については、そういった条例に基づいた歩道の整備等を行っております。一方で、現在の歩道が狭くて車椅子の方がすれ違いができないとか、そういつ

たところは実はかなりあると認識してございますので、そういった箇所についても地域の御意見を伺いながら、ちよつと優先順位も考慮しながら整備を進めてまいりたいと思います。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 専門部署は土木部だから、知事の御意見を伺いながらではなく政策として土木部長が反映させないといけない。だから、そうではなくて各部署はもちろん知事と相談はしなければいけません、自分たちの考えをどんどん前向きに出さないといけません。知事はトータルで財源がなければできないという方向になつてるので、どうですか。

○副議長（外崎浩子君） 土木部長佐藤達也君。

○土木部長（佐藤達也君） すみません。私の滑舌が悪かったのかもしれませんが、知事の御意見と申したのではなくて、地元の御意見も伺いながらと発言したものです。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） それから、水素ステーションの件。やっぱり今後進めるのが物すごい大事です。私は知事が知事会で答弁した内容は知っていますが、もう一歩進めて宮城県としては水素エネルギー、それから風力、太陽光などの再生可能エネルギーについては前向きに進める。CO₂削減のために二酸化炭素を排出する石炭火力は、電力にもいろいろお話をしながら極力抑える。ただ、さっきロシアの件を言いましたが、電気不足になつては駄目です。だからその間は太陽光なり風力なり、それから原発の再開も安全性を確保しながら早めにやるといふことが大事ですが、どうですか、知事。

○副議長（外崎浩子君） 知事村井嘉浩君。

○知事（村井嘉浩君） カーボンフリー社会をつくるためには、これはもう石炭エネルギーを使う発電は極力抑えていかなければならないと思っております。そういう意味でも再生可能エネルギーを最大限生かせるような社会づくりというのは、先駆的に技術力を持ったこの日本で進めていくことが重要だと思えます。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） 水素ステーションは基地を造って終わりではありません。やっぱり水素ガスをいかに営業等々に間に合うように進めるか。新仙台火力発電所があ

りますから東北電力にも大いに勧める。それからENEOS株式会社も水素エネルギーをやるうとしている会社ですから、そういうところとか、例えば、LNGを使ったり、それから石炭を使っている民間の会社はほとんどないと思いますが、そういう会社をリストアップして、こういう水素ガスの供給をするのでいかがですかと勧める。多分、今、いろんなファンド、銀行、いろいろなところに聞いても石炭火力なりCO₂を思いつ切り出しているところに対しては融資を引き揚げたり、いろんな手練手管がもう出ています。もうカーボンニュートラルは当然です。そういうことで、宮城県がその発信元になるように頑張ってほしいのですが、いかがですか。

○副議長（外崎浩子君） 知事村井嘉浩君。

○知事（村井嘉浩君） 努力します。

○副議長（外崎浩子君） 五十七番仁田和廣君。

○五十七番（仁田和廣君） いずれ、東北六県にも先駆けて水素ガスを最高に利用し、

また、CO₂削減を思いつ切りやっている宮城県であるように望みながら終わります。

ありがとうございます。